



# 人とまちがともに育つ 新たな杜の都に向けて

## —平成30年度施政方針から



仙台市長  
郡 和子

新年度は、仙台市が政令指定都市としてスタートをします。現在我が国が直面している人口減少と高齢化は、地域や都市のあり様に開く構造的な問題であり、新たな課題解決の手法が求められています。このような状況に直面する今、このまちが立脚すべき原点を見つめ直すことが必要です。

「杜の都」は、藩祖伊達政宗公の植樹政策に端を発し、戦災から再生する中で植樹されたケヤキ並木は市民の心の拠り所となっていました。そして、東日本大震災から立ち上がり、復興のシンボルとして東部地域の緑の復活に取り組んでいることも特筆すべきことです。厳しい状況の中にあっても、このまちをより美しく、より強く再生していく市民の意思と力。これこそがこのまちを支えてきた原点であると思います。

仙台の明日を拓きたいという市民の皆さまの意識を高めていくこと。人が暮らし、活躍する器とし

てのまちの姿が市民の皆さまの意思により再構築されていくこと。この二つの相互作用が、まちが輝き続ける鍵になります。

このような考えのもと、新年度の主題を「人とまちがともに育つ、新たな杜の都に向けて」と定め、108万市民の皆さまとともに、未来を指して確かな一歩を踏み出していきます。

### 人を育み、人がつながるまちづくり

子どもたちが健やかに育ち、将来への希望を膨らませることができ、環境づくりに向けて、まずは中学2年生を対象に35人以下学級を拡充します。喫緊の課題であるいじめ防止については、子供未来局に「いじめ対策推進室」を設置するほか、スクールカウンセラー等による支援体制を強化し、いじめの早期発見、早期対応につなげます。

切れ目のない子育て支援の充実に向け、産婦の健康診査への助成と併せ、心身のケアや育児指導を行う産後ケア事業を開始するとともに、特定不妊治療費の負担を軽減するため、助成を拡充します。

私立保育所等の整備など保育基盤の強化に取り組むとともに、若手職員への処遇改善など、保育従



保育基盤等の整備などにより、安心して子育てができる社会づくりを進めます

事者の資質向上、人材確保を図ります。また、アウトリーチ型の相談支援等の強化により、発達に不安を抱える就学前の児童やその家族への支援体制を整えます。

子どもの貧困対策については、放課後における小・中学生への学習・生活支援や子ども食堂への助成を行うなど、地域で子どもたちを支える機運を醸成します。

介護業界の人材不足に対して、業務の効率化やニーズに合うサービスの開発につながるようICT分野との連携を加速させます。また、障害のある方が自立した生活を送れるよう、障害特性に応じた業務の掘り起こしや事業者と求職者の相互理解を深める取り組みを強化し、就労の定着につなげます。

地域課題の解決へ向けては、支援制度や先進事例等を紹介するポータルサイトの構築に取り組み、担い手の輪を広げるほか、地域交通の確保に向け、実証実験費用の

助成など、地域での検討を実践へつなげる新たな支援を実施します。

### まちを育む、活力デザイン

都市空間形成の指針となる都市計画マスタープランの改定に着手するとともに、定禅寺通の活性化や青葉山公園の（仮称）公園センター整備事業について、関係団体や市民の参画により取り組みを推進します。

楽都の拠点となる音楽ホールの整備について検討を進めるとともに、本市のシンボルとなる市役所本庁舎の建て替えに向けた基本計画の策定に着手します。

地域経済基盤の強化は必須であり、仙台の経済成長に向けた新たな方針を定めます。多大な経済波及効果をもたらす「東北放射光施設計画」の実現に向け、独自の支援制度を創設します。本市経済の中核を成す中小企業には、外部人材の活用や、仙台ならではのプラ



昨年定禅寺通等を活用して行われたイベント「グリーン・ループ・せんだい」。都心部においてエリア特性を高めるまちづくりを公民連携で進めます

ンド構築の支援など、新たな事業展開へのチャレンジを後押しするとともに、経営者の高齢化に伴う事業承継に向けた支援を実施します。また、食品関連事業者等との連携を通じたブランド化の推進などにより、地元農産物の価値を高める取り組みを進めます。さらに、ビジネスの成長に向けた集中プログラムを実施し、東北全域への起業家輩出の流れを加速させます。

東北の魅力発信拠点の活用や東北各地の観光案内所をつなぐネットワークの拡大により、東北の観光復興を牽引します。また、パブリックアリティイ技術を活用した大手門などの歴史的風景の再現や仙台版図柄入りナンバープレートなどの導入など、伊達の息吹が感じられる取り組みを進めます。

### 次代へつなぐ、防災環境都市推進

震災遺構仙台市立荒浜小学校や、せんだい3・11メモリアル交流館の積極的な活用により、仙台ならではの防災の担い手づくりに取り組めます。また、震災の記憶と経験を伝える新たな拠点として、市中心部におけるメモリアル施設に関する有識者委員会を立ち上げ、検討するとともに、荒浜地区の住宅基礎群について、震災遺構とし



昨年4月の開館以来、国内外から多くの方が訪れる震災遺構仙台市立荒浜小学校

での整備を進めます。生活ごみの減量・分別を一層推進するとともに、事業ごみの指導啓発を充実させます。また、温室効果ガスの削減に向けて、事業者を対象としたアクションプログラムの検討に着手します。

かさ上げ道路と津波避難道路の完成を目指すほか、集団移転跡地の利活用など、東部地域に新たな活力を生み出す取り組みを推進します。また、心のケアを含む健康支援やコミュニティ活性化支援など、被災者の方々に寄り添った復興を進めていきます。

人口減少がもたらす課題への挑戦は長きにわたることとなりますが、その歩みを止めてはなりません。新年度には、仙台の新たな羅針盤となる総合計画の策定に着手します。変化が激しさを増す時代環境に対し、市民の皆さまとともに果敢に取り組んでいきます。